

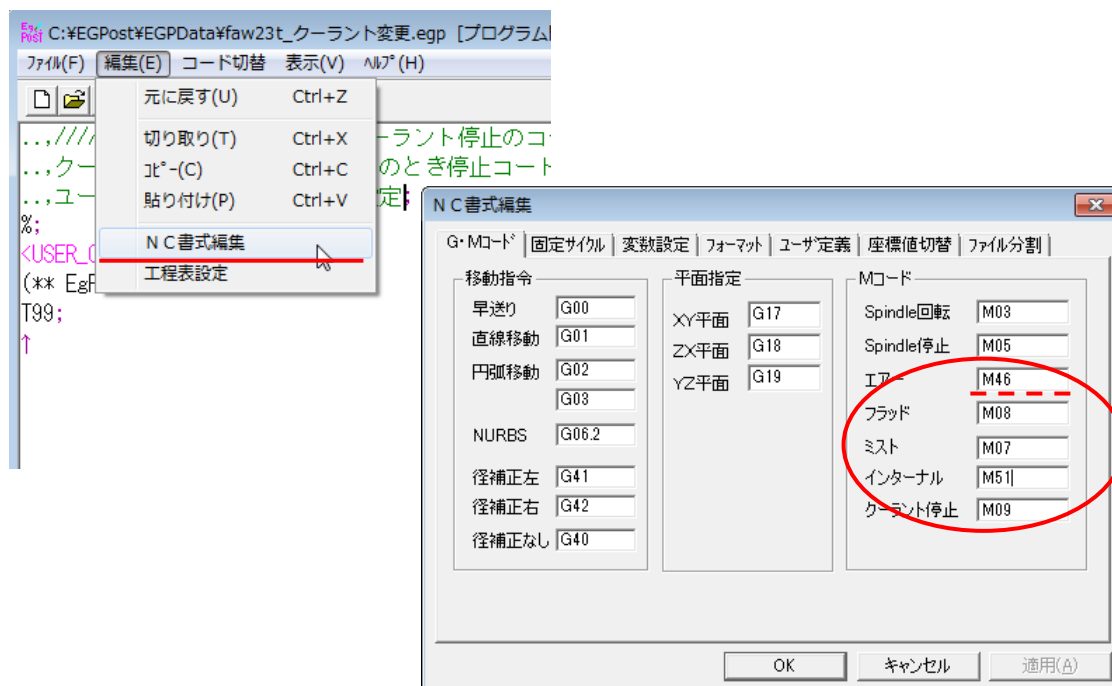
クーラント指令の種類による 停止指令の変更

【EgPost4.25 設定例】

マシニングによっては、クーラントの種類ごとにクーラント停止指令が変わるものもあります。そんな場合に、EgPost ではどのように設定すればよいのでしょうか？一つの例を紹介します。

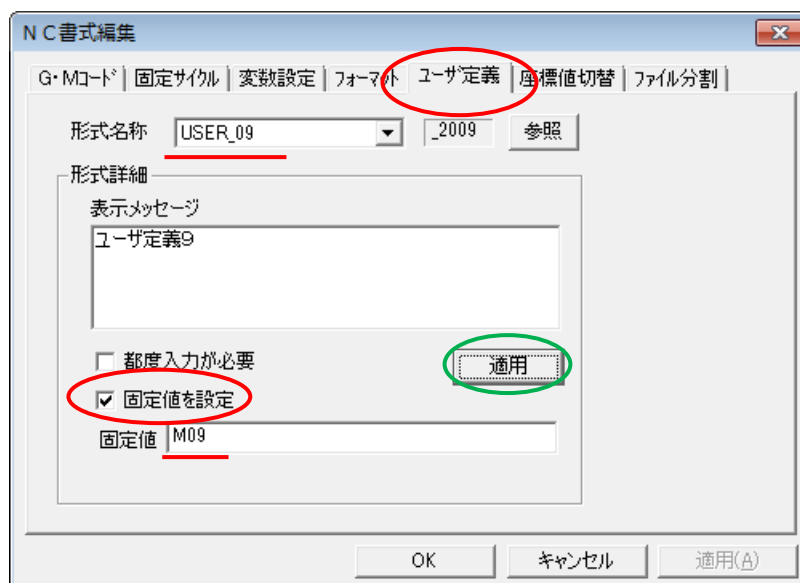
例) M46(エアー)のときに、クーラント停止を M47 に設定する。

1. NC 書式編集にてクーラントの M コードを設定



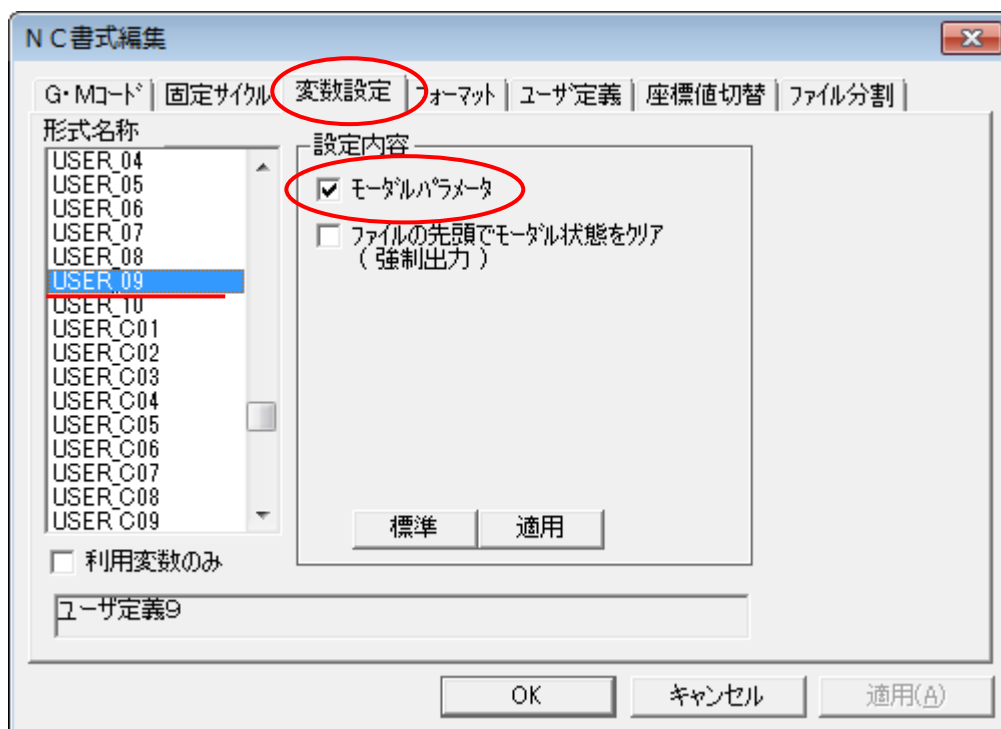
2. USER_xx の設定されていない番号に M09 と M47 (M46 に対応した停止コード) を設定します。

この例では USER_09 に M09 を USER_10 に M47 を設定します。



固定値を設定のみにチェックし、固定値を M09, M47 に設定し「適用」。

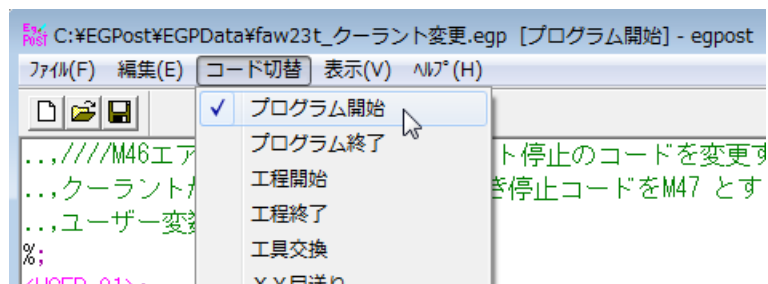
3. USER_09, USER_10 のモーダルの設定を確認します。



モーダルパラメータの項目にチェックがあることを確認してください。

2つのユーザー変数の設定ができましたら、「O K」でN C 書式設定の画面を閉じます。

4. プログラム先頭でパラメータをモーダル状態（変数が一度使用されたとき変数の値が前回と同じ値の時に出力されない状態）にしておきます。



プログラム開始セクションで

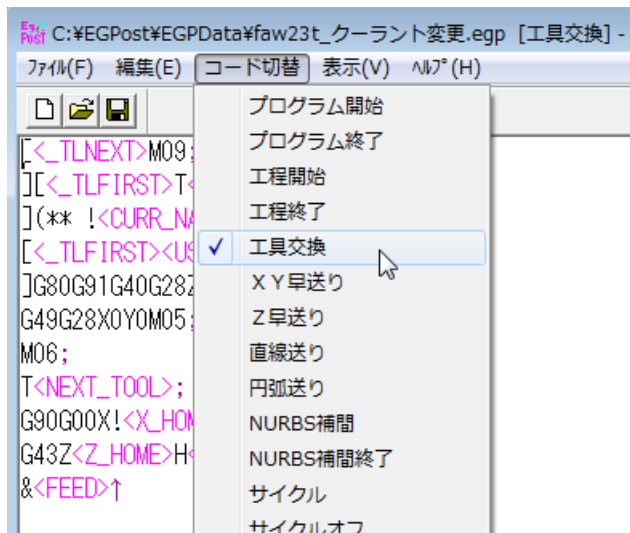
\$<USER_09> \$<USER_10>と入力します。

```
<USER_01>;  
(** EgPost **);  
T99;  
$<USER_09>$<USER_10>↑
```

5. 工具交換セクションにクーラントを設定します。

ここでは

- ① 工具交換後にクーラント開始を設定し
- ② 工具交換前に、クーラント停止を設定します。



① 工具交換後のクーラント開始部分

```
.../////クーラント設定/////;  
... M46の時に、<USER_09>(M09)をモーダル;;  
... <USER_10>(M47)を非モーダル;;  
<COOLANT><IF><COOLANT>=="M46";  
<THEN>$<USER_09>&<USER_10>;  
... そうでないとき逆の設定;  
<ELSE>&<USER_09>$<USER_10><ENDIF>;  
↑
```

工具交換前にクーラント停止の出力

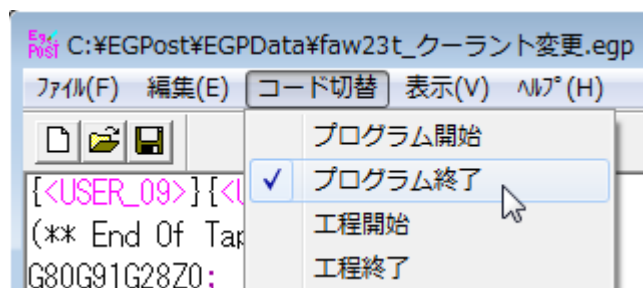
```
...クーラント停止;  
{<USER_09>;  
{<USER_10>;  
};
```

{ } で変数を囲ってください。

```
...クーラント停止;  
{<USER_09>;  
{<USER_10>;  
};  
...最初の工具交換;  
[<_TLFIRST>T<CURR_TOOL>;  
(** !<CURR_NAME **);  
[<_TLFIRST><USER_02>G00;  
G80G91G40G28Z0;  
G49G28X0Y0M05;  
M06;  
T<NEXT_TOOL>;  
G90G00X!<X_HOME>Y!<Y_HOME>;  
G43Z<Z_HOME>H<CURR_TOOL>;  
.../////クーラント設定/////;  
... M46の時に、<USER_09>(M09)をモーダル;;  
... <USER_10>(M47)を非モーダル;;  
<COOLANT><IF><COOLANT>=="M46";  
<THEN>$<USER_09>&<USER_10>;  
... そうでないとき逆の設定;  
<ELSE>&<USER_09>$<USER_10><ENDIF>;  
↑
```

- ③ の設定に従い、どちらかモーダルでない方が出力されます。

6. 同様に、プログラム終了時にもクーラント停止を設定します。



```
[<USER_09>]{<USER_10>;  
(** End Of Tape **);  
G80G91G28Z0;  
G49G28X0Y0M05;  
M06;  
G90;  
M30;  
%;  
↑
```

7. 【注意】XY 早送り, Z 早送り など他のセクションにクーラントなどが入っている場合は、不要なコードが出力される可能性があります。この設定例では、他のセクションにはクーラントのコードを設定しないでください。

実際に設定し、出力コードを確認しながらお試しください。

※サンプルファイル：faw23t_クーラント停止例.egp

平成 23 年 9 月 7 日

EgPost4.25d